

住まい

いろいろ

花田 佳明

「すみませーん。配線、また手伝わってもらえませんか」

ホルモン屋で一杯やっていた近所のおじさん呼んでくると、あつという間に照明が点灯。汗まみれで工事をしていたみんなから大歓声がわきました……。そんな話を最近、学生がうれしそうに教えてくれた。

神戸市の中央区と兵庫区にまたがる入江地区は、市場や路地が残る下町だ。造船業で栄えたが、戦後は次第に衰退し、阪神大震災でさらに寂しくなった。高齢化が進み、シャッターを下ろした店も少なくない。

その町に、私が勤める大学の学生たちが住むという。空き家を借りて自分たちで改装する計画で、名づけて「住みコミュニティ

ケーシヨンプロジェクト」。生活することによって、昔からの住民と交流しようという試みだ。

総菜やお好み焼きのにおいが漂う市場、工場や倉庫の古びた大きな空間、ヒリケンさんのい

人情と学生ノリで活性化

る松尾稲荷神社など、ニュータウンやマンションで育った学生たちを引きつける魅力が町にはあふれている。

何より魅力的なのは人情味豊かな人々。たくさんいる職人さん、学生の計画に興味津々となり、あれこれ手伝ってくれる。配線をつないでくれたおじさん、ホルモン屋で知り合っ



下町の人情に支えられて進んだ
空き家の改装工事—神戸市内で

下町に住み込む

た元電気工事店主だ。

町と学生たちとのつき合いは長くなった。後輩へと引き継ぐうち、5年目を迎えた。その間、学生たちは町の歴史や建物と路地の使われ方を調べた。探訪ツアーやアートイベントを仕掛け、町おこしの試みを重ねた。成果は論文などに発表。ついに住もうということになっ

た。
冒頭で紹介したのはプロジェクトの事務局を兼ねた「チカちゃんハウス」の改装工事。地下室付きの空き家なので、このネーミング。このほど完成し、いよいよ学生たちが暮らし始める。

「住みコミュニティ」を自称する学生たちは、空き家を安く貸してもらった代わりに、犬の散歩やお年寄りの食事の相手など、恩返しを盛り込んだ契約をかわした。地域に、より積極的にかわっていきつものようだ。

さあ、ここからどんな物語が生まれてくるのか。地域にすぐとけ込む若者の社交性は、私の期待と好奇心をいっぴい膨らませてくれる。プロジェクトの進み具合は、ホームページ (<http://www.sumiconi.co.jp/>)でも公開中。ぜひご覧下さい。

(神戸芸術工科大学教授)

◇毎週日曜日に掲載します。